

5

ひどいアレルギー (アナフィラキシー)

アレルギー反応のなかで、アレルギーの原因物質を食べたり、吸い込んだり、触ったりと体に取り込まれた後、すぐに複数の臓器や全身にアレルギー症状があらわれることがあります。これをアナフィラキシーといいます。アナフィラキシーの症状でもっとも多いのは、じんましん、赤み、かゆみなどの「皮膚の症状」。次にくしゃみ、せき、ぜいぜい、息苦しさなどの「呼吸器の症状」と、目のかゆみやむくみ、くちびるの腫れなどの「粘膜の症状」が多くなります。そして腹痛や嘔吐などの「消化器の症状」、さらには、血圧低下など「循環器の症状」もみられ、これらの症状が複数同時に現れてきます。

そして、アナフィラキシーによって症状が急激に変化し、血圧の低下やそれにともなって意識を失うなどのショック状態におちいることがあります。この生命の危険な状態をアナフィラキシー・ショックといいます。アナフィラキシー・ショックはぜん息を持っている食物アレルギーの人に多いといわれており、特に注意が必要です。

